

特集：九国大の地域貢献活動
地域のために。地域とともに。

Dream100

第5回高校生作文コンテスト 受賞者発表



特集

九国大の地域貢献活動

地域のために。地域とともに。

急激な高齢社会への移行や地域経済の停滞など

今の社会状況や、これからの日本が向かう先は、

けっして明るい話題ばかりではありません。

そういった問題を解決するために、今、大学への期待が高まっています。

本来の使命である教育はもちろん、

知識や情報、人脈をもった人材や、先進的な施設を有した

地域コミュニティの中核的な存在として、

九州国際大学がすすめる地域貢献活動を紹介します。



北九州の発展に貢献することが、 建学からの使命です。

社会から 大学に期待が集まっている

かつて大学は、社会とはかけ離れたものとして存在していた時期がありました。それが今、変わりつつあります。地域社会とつながり、地域社会に貢献することが求められるようになってきました。

背景には急激な高齢社会への移行や地域経済の停滞といった、社会環境の変化があります。日本が直面するこうした問題は、一企業や個人が解決できるものではなく、地方自治体や国といった

大きな単位で、長期的に取り組んでいく必要があります。その際の解決策をどこに求めるか。そのひとつの答として大学に注目が集まってきたのです。

もともと大学には教授をはじめ、知識や情報、人脈をもった人材が豊富。研究のための施設や設備も整っています。地方から流出しがちな若い力が集まっているのも、特色のひとつです。これを放っておく手はありません。

社会と大学の交流が 地域の課題を解決する

逆に大学側から見たら、ど

うでしょう。新卒者にも実行力や対応力が求められている今、在学中に実社会で経験を積ませる場があることは、人材育成にどれほどプラスになるかわかりません。

社会は大学の資源を活用し、大学は学生が実践を学ぶ場として地域社会を活用する。その循環が、地域の課題解決やコミュニティの形成につながっていきます。

建学から続く、人づくり 重要性を増す、地域づくり

九国大のルーツは、1930年に開設された「九州法学校」です。働く勤労青年の「もつ

と学びたい」という思いに添えて、働きながらも通えるように夜学としてスタートしました。学校で学んだ知識を実務に活かしてもらおうと、九国大は80有余年前から変わらず、地域の発展に貢献できる人材育成を続けていますし、2000年に平野キャンパスに移転した際には、塀のないキャンパスやエクステンションセンターでの資格講座の開講など、地域に開かれた学園づくりに取り組んできました。

今号では本分である教育を通じた人づくりの他にも、コミュニティの形成を視野

に入れた地域づくりに関する話題を取り上げました。と言うのも、この夏、各地で相次いだ自然災害を例に出すまでもなく、地域コミュニティの重要性が特に求められていると感じるからです。「地域再生・活性化の拠点」としての学園づくりに、ご期待ください。



University

たすけあい、まちを守るために

産官学の連携を強化

今年、九州国際大学は北九州市をはじめとした自治体や団体と、2つの協定を締結しました。これは法学部の「地域安全マップづくり」に代表される地域連携の活動が評価されたものです。今後、人も人や情報、知恵といった大学の力を発揮し、安全・安心な住環境づくりとともに進めていきます。

地域防犯対策に関する協定

3月に本学、北九州市、福岡県警察の三者により、地域防犯対策に関する協定

北九州市との防災協定締結

3月11日、本学は北九州市と地域団体2社を含む計4団体で、産官学連携によ

る防災に強い町づくりをめざして防災協定を締結しました。この協定は大規模災害への備えとして緊急車両や病院などの自家発電燃料の供給、公衆電話回線における緊急時通信回線の設置、そして緊急避難所としての施設利用と人的サポート体制などの整備を結ぶものです。本学は地域防災拠点として、被災者の一時避難や救護活動のための緊急車両の乗り入れや、非常用食料や飲料水、毛布などの防災資器材を備蓄する支援拠点の役割を担います。



高校生が大学の講義を体験

高大教育連携の協定締結

4月11日、九州国際大学と福岡県立八幡中央高等学校は、高大教育連携に関する協定を締結しました。これは「地域活性化の促進」と「質の高い教育の提供」を主な狙いとしたもので、以下の3つのプログラムを準備しています。今年度は高校1年生の希望者40名が放課後、1年間で計16回の英語の授業を本学キャンパスで受ける予定です。なお、4月28日に第1弾「英語育成プログラム」が大学図書館で実施され、鈴木理絵先生と学生スタッフが約50名の高校生に英語学習の魅力を伝えました。

今後、「開かれた大学」として、さらに地域と連携を深め、本学の教育を通じて「地域社会に有益な人材を育成」することが期待されています。



- ① 高大連携英語力育成プログラム
- ② 社会人プロジェクト学習プログラム
- ③ 両校が同意する連携事業

地域の担い手として

「前田祇園山笠」への参加



7月13日のお潮井取り・祭礼・笹山巡幸をかわきりに、北九州市指定無形民族文化財「前田祇園山笠」が4日間にわたり盛大に執り行われました。柔道部は二番山笠の、硬式野球部は一番山笠の力強い担ぎ手として活躍。また、仲宿八幡宮で行われた、当日祭の「祇園大祭みこしかつぎ奉仕」には、大学祭実行委員会の学生が、最終日の山笠競演会イベントでは、ストリートダンス部の演技、吹奏楽部の演奏、九国やつほー！報道部のMCと本学の学生が多数参加し、地域の祭りを盛り上げました。

グローバルな人材育成をめざして

国際関係学部スピーチコンテスト

本学国際関係学部では、英語と韓国語のスピーチコンテストを開催しています。これまで学内中心で行われていたものを、昨年度から高校生を中心に開放し、より高いレベルでのグローバルな人材育成をめざします。

第1回KIU杯 高校生英語スピーチコンテスト

昨秋11月16日(土)に開催。全国から65名の応募があり、一次予選を通過した19名の高校生が本選大会に臨みました。豊かな表現力で自身の主張を流暢な英語で披露し、ハイレベルな大会となりました。

※大会関連の記事および2014年11月15日に開催予定の第2回KIU杯大会情報は本学ホームページにてご覧いただけます。

ハングルスピーチコンテスト

高校・大学で韓国語を学ぶ学生たちの成果発表の場として、2012年から開催。昨年は10名の高校生が「課題朗読」に挑み、13名の大学生が「自由発表」を披露しました。他大学からも数多く参加し、今年もハイレベルなスピーチが期待できそうです。



広く学びの場を提供

北九州市民カレッジ

北九州市民カレッジは、市民の高度でかつ多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進および生涯学習社会を担う人材の育成を図ることを目的として、2003年より北九州市教育委員会生涯学習総合センターが実施しています。

本学は、以前より年間1講座程度を提供していましたが、本学教職員による生涯学習機能を地域へ開放することを事業の1つに掲げている地域連携センター開設後は、積極的に実施するようになりました。昨年度

は7講座を開講し、延べ136名の受講生が講座を受講しました。7割以上の出席者の割合である単位認定率は、本学の平均が80.8%で、市民カレッジ全体平均75.8%を上回る結果となりました。また、終了時にアンケートを実施していますが、7講座の講座満足度の平均は、95.0%と大変高くなっています。

今年度は前期8講座、後期9講座の開講を予定しています。今後も本学の教職員が市民の皆様に魅力ある講座を提供しますので、ぜひともご期待ください。



High School

福岡英語力向上プロジェクト

Teamくわけん

英語関係者の幅広いネットワークをつくり、教える力を伸ばしたいと始めた「Teamくわけん」。付属高校の英語教師である桑野健太郎先生が発起人です。

① 英語指導に関する専門的学習・意見交換

② 定期的な研究会の実施

③ 各自の個性を生かしたネットワークおよびコミュニケーションの場

以上、3つの目的をもった研究会を通して、英語の役割とは何か、英語を通して幸せへの選択肢を増やすためにはどうすればよいのか、などを一緒に考えていきます。

設立は2012年。活動を続けることによりメンバーも増え、今現在は34名。就学前の子どもたちを指導している方、小学校、中学校、高校、大学の指導者、塾や英会話スクールの講師や出版社の方

など、幅広いネットワークが作られています。人数が増えることにより、活動の幅も広がりました。英語のみにテーマを絞るのではなく、教育を地域レベルで考えていこうと、教員以外の一般の方を対象とした研究会も開催しています。

代表者の桑野先生は言います。

「子どもの幸せへの選択肢を増やすためには、教育を地域で考えていかなければならないと考えます。社会の情報が発達するにつれ、さまざまな情報が瞬時に手に入る時代となりました。しかしこういった顔と顔を突き合わせて話し合いの場を設ける研究会に参加することにより、お互いのコミュニケーションが深まり、生の情報を交換することができそうです。このプロジェクトはその架け橋となるよう、英語教育のみならず教育を地域で考える団体として活動を続けていきます」。



研究会報告

◎第8回研究会：テーマ「教師学 ～思いを適切に伝えるために～」

教師学とは、トマス・ゴードン氏によって確立された訓練プログラム。生徒と教師の関係に主眼を置くことで、よりよい人間関係を築き、率直なコミュニケーションを行い、建設的な形で対立を解決する原理・原則や方法を身につけるといふもの。学んだことを日常生活で実践することにより、熱い思いを適切に、子どもたちに伝えることができます。講師は、鹿児島純心女子中・高等学校英語教

諭であり、親業訓練協会 親業訓練・教師学・ユース（中高生）インストラクターである、園元恭子先生。教員だけではなく、地域の方約60名の参加があり、「ふだんの子どものコミュニケーションの中でレッテル言葉を多用していることに気づきました。今後は実際の行動を指摘することにより誤解が生じないように気をつけていきます」などの感想があり、非常に好評でした。

◎第11回研究会：テーマ「進学実績を出すための学習環境研究会～家庭編（保護者向け）～」

保護者、生徒、学校の3者で教育を考えていく試み。参加者の意見を積極的に出すために、研究会では保護者同士のペア活動を取り

入れ、ふだん共有できない情報を交換。不安や疑問を共有することにより、問題解決の糸口をつかんだ保護者も多くいました。

掃除で示す、感謝の気持ち。

ラブアースクリーン運動

付属高校は恒例の、学校の近隣地域をきれいにする「ラブアースクリーン運動」に参加、枝光地区の清掃をしました！

ふだんから毎朝、通学路のゴミ拾いをしていきますが、それでも茂みの中や植え込みの隅にゴミが見つかります。学校から駅まで歩きながら、あるいは学校の裏手の住宅街などまで行って清掃します。側溝のふたを開けて、中に詰まっているものを取り、通学路以外の地域も徹底的に清掃します。地域がきれいになると気持ちが良いものです。



Junior High School



チャレンジングリッシュ

英検5級に挑戦!

小学5・6年生に英語に触れてもらう「チャレンジングリッシュ」は、今年で3回目。26名が参加してくれました。

1時間目は英会話、2時間目は「すらら」というeラーニングです。夏休みを8日もつぶして英語に取り組みむけです。ただ感心するばかりです。中にはサッカーをやっている子たちが4人位いて、とても元気で明るく楽しく授業ができました。発音も必要以上にしっかりとやってくれますので、助かるやら疲れやら。スペリングも危うい子から、英検4級をめざして、過去形にさくさく進んでいる子までいろいろです。2時間目

は、ヘッドホンをしてパソコンとにらめっこ。静寂の中で、自分の世界に没入です。九州国際大学の学生2人がすばらしいサポートをしてくれて、個別にわからないところを教えたり、説明したりして、目標である英検5級に合格できるようにしていきました。やる気満々の子たちばかりなので、見ていてとてもすがすがしいです。終わった後のジュースで笑みがこぼれています。昨年は、英検5級に9人、4級に2人合格しました。今年は昨年の合格者計11人を突破するのが目標です。今回のチャレンジングリッシュの成果が出るようにと願っています。

やさしさは海を越えて ネパールへの楽器提供



ネパールで国民に愛されている日本人、“OKバジ”こと垣見一雅さん。バジ=おじさん、何でもOKと引き受けてくれるので、ネパールの人々は、彼を“OKバジ”と呼ぶ。OKバジは、車で行くことのできない山道を毎日歩き、村々を回る。教育、医療を中心に日本の支援をネパールへ届けて20年。彼が作った学校は、100以上。しかし学校には、黒板と机しかない。そこで、日本で使わなくなった楽器をネパールへ届ける試みを始めた。集めた楽器は、ボランティアがネパールの子どもたちに手渡す。確実に届くように。この活動に、附属中学校が協力している。校長先生の呼びかけにより、たった1カ月で40余りの楽器が集まった。幼稚園、小学校で一生懸命練習した楽器、もう使わないから、次はネパールで使ってもらおう。この思いをネパールへ届けよう。

最後に、垣見さんの言葉。

「人にちょっと手を貸すと、君たちも、
ちよっとうれしくなります」。



来春には念願の税理士に。 夢を大学院で叶えました。

則松 佳孝さん

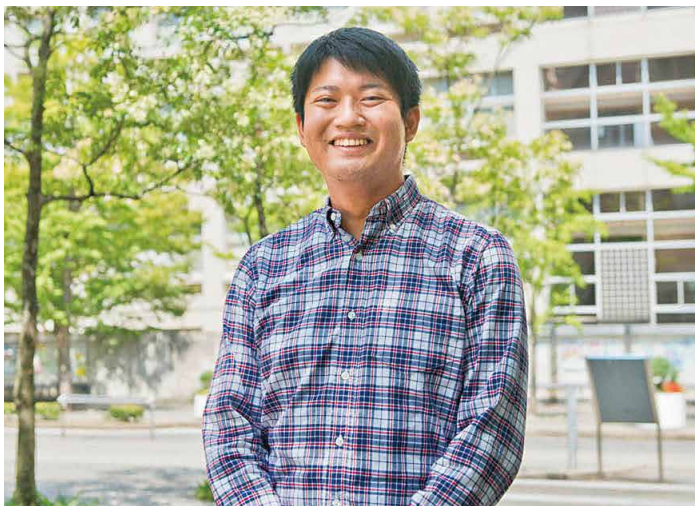
大学院法学研究科 2年生

伝統の少人数制で、
法律の知識を獲得

慶應義塾大学の理工学部を卒業後、システムエンジニアとして働いていました。仕事上簿記の知識が必要になり、勉強を始めたことがきっかけで、税理士になりたいという夢を持つようになり、現在は税理士事務所でも働きながら、税理士試験に挑戦しています。理系出身だからか、法律の知識に疎いのが、一つのコンプレックス。そこで税理士試験の免除があり、夜間通えることから、九国大の大学院で学ぶことにしたのです。

1年目は毎日のように午後6時から9時まで講義があり、仕事との両立は大変でした。でもクラスが9名と少人数のため、先生との距離が非常に近く、法律門外漢の私にもわかるように初歩の初歩から熱心に指導いただけます。この熱的な学びは、建学の時から伝統だとか。図書館など大学の充実した施設を使えることにも大きなメリットを感じています。

税理士試験はすでに3科目に合格しており、現在取り組んでいる修士論文を完成させ2科目免除になれば、晴れて税理士として独立できます。社会福祉法人やNPO法人など、公益性の高い事業を行っている方々を、会計や税務の立場からサポートできるようにするのが今後の目標です。



法律と税務の知識を、 人々の幸せに役立てたい。

藤本 慎也さん

大学院法学研究科 2年生

平成26年度 国税専門官採用試験合格

先生や同級生との出会いも、
一生の財産に

前職は製薬会社に勤務し、医薬品の営業をするMRでした。今は国税専門官をめざしているのですから、そのギャップに驚く人もいるかもしれません。MRをしていた時に痛切に感じたのは、医療制度は税金で支えられていること。また東京農工大学の農学部と大学院在籍中に、農家の経営について研究するなかで、補助金や税法について興味を持つことが、国税専門官や税理士に興味を持つきっかけになっています。

とはいえ、大きな方向転換に不安がなかったわけではありません。大学院進学にあたってはオープンキャンパスで経歴やバックボーンを伝え、勉強についていけるかを相談しました。その時話を聞いてくれたのが、科長の権田先生です。法律を一から学ばないといけないことを理解いただき、実際の講義や論文指導でも、どんな質問にも丁寧に答えてくださる。法学部出身者じゃなくてもちゃんと受け入れ、育てるといううたい文句は本当でした。

共に学ぶ同級生はみなさん年上で、人生経験も豊富。プライベートで飲みに行くことも多く、勉強以外の相談に乗ってもらうこともあります。このつながりが、今後の仕事や人生でもプラスになることも、大学院で学んだメリットだと思います。

九州国際大学のはじまりは、勤労者のための夜学だった「九州法学校」。
その歴史を受け継ぎ、現在も地域の方の生涯学習機関として、学びの場を提供しています。



還暦を過ぎても現役で、
新たな夢に挑戦しています。

末永輝清さん
大学院企業政策研究科 1年生

国際化社会に役立つ
システムの構築を

山口県美祢市で写真館の3代目として生まれ継承してきました。水球で国体とインターハイ出場の経験があったため、明治大学から誘いを受けましたが、「長男が家業を継ぐのは当然」と断念し、日本写真専門学校に進学しました。帰郷後、八幡大学の夜間や慶應義塾大学の通信教育で学ぶ。カラー現像所を設立するなど、大学の学びを活かし家業を事業へと発展させてきました。9年前に息子に本館を譲り、自身は山口市内に新しい写真館を設立して、九国大の国際関係学部、大学院へ。山口からの通学は大変ですが、先生や同級生との情報交換は実務的で、まさに高度な生きた企業経営を学べていると感じます。

修士論文は「グローバルゼーションにおける観光産業について」。このテーマを選んだきっかけは、5年前に高齢の母を連れて出かけた、世界一周旅行で感じた不便さです。高齢者や身障者向けの部屋はあっても、見晴らしが良くない。広いトイレはつかまるところがなく、おまけに床の大理石は滑りやすいのです。だれもが安心して世界中のどこにでも旅行ができるように、環境やシステムを整える。それを残された時間で構築することが、将来の目的になりました。

九州国際大学 大学院

社会人でも通いやすい昼夜開講制です。

大学院の修士課程で学んで、職業人としてより高度な知識や能力を身につけたいと考える人に、九国大では2つの研究科を開講しています。もともと北九州の労働者の学びの場として開学した九国大。年齢はもちろん、東アジア圏からの留学生など多様なプロフィールをもった学生が、意見をたたかわせる

大学院の風景は、85年前の建学の精神を受け継ぐものです。講義は昼間働いている社会人も勉強しやすいよう、夜間や土曜日に多く開講。ひとつの科の1学年の定員が10名という徹底した少人数制で、2001年の開設以来、多くの修了生を送り出しています。



法学 研究科

企業や行政の現場で発生する、さまざまな問題を解決するための法知識の修得をめざします。法律に対する興味と志があれば、出身学部は問いません。



企業政策 研究科

経営政策と企業環境の2つの柱に沿って研究します。経済のグローバル化が進む今、求められる専門知識と実務能力の獲得をめざしています。



4,172点ものご応募ありがとうございました。

Dream100

第5回高校生作文コンテスト

九州国際大学は毎年、九州・山口の高校生を対象に、
100文字以内で思いを綴ってもらう作文コンテストを実施しています。
5回目を迎えた今年は27校から4,172点もの、「感動」をテーマにした作品が集まりました。



若者の未来をサポートする大学に、
との思いを新たに

開学80周年の、2010年にスタートした「Dream100作文コンテスト」。今ではすっかり恒例行事になっており、要約や表現力を鍛えるためにと、多くの高校で学校をあげて取り組んでいただいています。

実際に書いてみると、100文字という規制の中で、自分の思いを伝えるのは容易ではありません。単にムダを削るといっただけでなく、「本当に言いたいこと、伝えたいことは何か」と、徹底的に自分と向き合うことが必要です。実はこれこそが、このコンテストの狙い。高校生という多感な時期に、そうした時間を持って欲しいという願いが込められています。

FBS福岡放送賞を受賞した堺康徳さんは言います。「100文字作文を通して家族の大切さや、命の尊さを改めて学ぶことができました」。

今年は「感動」というテーマだけに、命や家族・友だちとの絆など、深い内容が多かったのが印象的でした。人を助ける勇気ある言葉や行動は、私たち大人も見習わなければなりませんし、そうした若者をサポートしていかなくてはとの思いを強くしました。



Dream100
第5回高校生
作文コンテスト

九州・山口の高校生を対象に募集している作文コンテスト。名前の「100」には、開学100周年に向け、たゆまずに歩き続けようという決意と、高校生の夢が「満点」の花になるようにという願いが込められています。九州国際大学は今後も、次代を担う若者の声に耳を傾け、夢の実現をサポートしていきます。

■主催／九州国際大学

■共催／読売新聞西部本社

■後援／北九州市

FBS福岡放送

■選考委員

作家・北九州市立文学館名誉館長
九州国際大学客員教授

佐木隆三氏

九州国際大学学長

堀田泰司

北九州商工会議所専務理事

羽田野隆士氏

FBS福岡放送アナウンサー

松吉ゆかり氏

読売新聞西部本社編集委員

九州国際大学客員教授

時枝正信氏

九州国際大学事務局長

井村亮一



あなたの「感動」が だれかの「感動」を呼び起こす

たくましい自然、けなげに生を紡ぐ生き物たちに、心を揺り動かされた高校生がいました。かけがえのない家族に言及した高校生も目に付きました。感動の形はさまざまでも、多くの高校生が生き生きと泣いて笑って暮らしていることが改めて分かりました。Dream大賞の橋本莉奈さんが言った「やめなよ」。たった4文字ですが、なかなか口にするのできない言葉です。橋本さんの勇気が、選考委員の「感動」を呼び起こしたのです。

長崎県佐世保市で、女子高校生が同級生を殺害するというショッキングな事件が起きました。加害者の生徒は反省や謝罪の言葉を口にする事なく、淡々と供述していると報じられています。どこかに、泣いて、笑って、悲しんで、喜んで、という「感動」をなくしてしまったとしたら、残念といわざるを得ません。

選考委員長 **佐木 隆三氏**

最優秀学校賞

宮城県／宮崎商業高等学校

優秀学校賞

福岡県／大牟田高等学校

福岡県／青豊高等学校

学校賞

【山口県】桜ヶ丘高等学校、田部高等学校、野田学園中学高等学校、柳井高等学校

【福岡県】沖学園高等学校、折尾愛真高等学校、九州国際大学付属高等学校、久留米筑水高等学校、古賀寛成館高等学校、小倉工業高等学校、小倉東高等学校、小倉南高等学校、常磐高等学校、西日本短期大学附属高等学校、ひびき高等学校 福岡海星女子学院高等学校、大和青藍高等学校

【長崎県】壱岐高等学校、海星高等学校

【大分県】森高等学校

【熊本県】熊本マリスト学園高等学校、高森高等学校

【鹿児島県】樟南高等学校

全入選者はホームページに掲載中！

九国大 ドリーム100

読売新聞西部本社賞

延広 千代さん

(福岡県／折尾愛真高等学校1年)

小	さ	な	男	の	子	が	歩	道	の	す	み	っ	こ	で
し	ゃ	が	ん	で	い	た	。	何	を	し	て	い	る	の
か	気	に	な	っ	て	近	く	に	行	く	と	、	怪	我
を	し	た	小	さ	な	虫	を	見	な	が	ら	「	が	ん
ば	れ	!	が	ん	ば	れ	!	」	と	言	っ	て	い	た
。	私	の	心	は	男	の	子	の	や	さ	し	い	気	持
ち	で	温	か	く	な	っ	た	。						



受賞の知らせを聞いた時、とてもびっくりしました。ドリーム100は初めての挑戦でしたが、「感動」というテーマを聞いて、心に一番に浮かんだ場面を書きました。読んだ人が理解しやすいように詳しいことは書かずに、伝えたいことだけを書いたのが良かったのだと思います。

Dream大賞

橋本 莉奈さん

(福岡県／小倉東高等学校1年)

私	が	小	学	生	の	頃	、	ク	ラ	ス	の	い	じ	め
っ	子	に	勇	気	を	出	し	て	「	や	め	な	よ	」
と	注	意	を	し	ま	し	た	。	怖	く	て	手	が	震
え	て	、	心	臓	が	飛	び	出	し	そ	う	で	し	た
。	そ	の	次	の	日	、	い	じ	め	ら	れ	て	い	た
友	達	が	手	紙	を	く	れ	ま	し	た	。	「	あ	り
が	と	う	」	は	私	の	誇	り	で	す	。			



今の世の中は、自分の周りでいじめがおきていても見て見ぬふりをする人がとても多く、そのせいで自殺にまで追い込まれてしまった人をニュースでよくみます。そんなニュースが本当になくなって欲しいし、私の作文がみんなのいじめを止める勇気につながれば嬉しいです。

選考委員会特別賞

南 侑花さん

(福岡県／九州国際大学付属高等学校1年)

以	前	、	と	も	辛	い	こ	と	が	重	な	っ	て	
い	た	時	、	私	は	友	人	の	前	で	「	死	に	た
い	。」	と	呟	い	て	し	ま	っ	た	。	そ	ん	な	
時	友	人	が	真	剣	な	眼	差	し	で	力	強	く	言
っ	た	言	葉	は	た	っ	た	一	言	だ	け	れ	ど	、
私	の	心	に	強	く	響	い	た	。	そ	の	友	人	は
こ	う	言	っ	た	。	「	生	き	ろ	。」				



100文字にまとめるのは大変でしたが、私を救ってくれた友人への感謝の気持ちと、友人からもらったこの感動を誰かに伝えたいという気持ちを作品に込めました。受賞は私に「生きる。」と言ってくれた友人のおかげ。この友人に二重の意味で感謝しています。

FBS福岡放送賞

堺 康德さん

(長崎県／海星高等学校3年)

母	と	喧	嘩	し	悩	ん	で	い	る	時	、	生	ま	れ
た	日	の	ビ	デ	オ	を	渡	さ	れ	た	。	そ	こ	に
は	千	g	で	産	ま	れ	た	私	の	手	を	握	り	、
泣	き	な	が	ら	折	る	母	が	居	た	。	私	は	母
の	愛	情	に	涙	が	溢	れ	、	母	へ	の	感	謝	で
胸	が	い	っ	ぱ	い	に	な	っ	た	。	「	産	ん	で
く	れ	て	あ	り	が	と	う	」	。					



最初の作文は500字超。それからは大切な単語だけを抜き出し、接続を工夫し、簡潔に気持ちを正直に書くことを意識しました。夢は2020年の東京オリンピックに携わり、世界中の人々に感動を与える選手達をサポートすること。受賞を自信に努力を積み重ねていきたいです。

併設校でありながら自由
自由に高校を選択させるという方針を打ち出し、志願者を増やしている九国付中。
「高校受験こそ、中学生生活最大の体験学習」と位置つける、
新生付中の挑戦を迫りました。



“強い節”を、体験でつくる

九州国際大学付属中学校 校長 八山 廣

いい学校に進学させたいという、
保護者の期待に応える

九州国際大学付属中学校は2010年の付属高校の男女共学化と中高一貫校の高等部の合流にともない、新生中学としてスタートしました。6年前と比べると、2014年の志願者は2.8倍に、入学者も2.7倍になりました。これは本校の「自由に高校を選択させ、受験させる」という方針が支持されてきた表れだと思っています。本人が希望する上位校への進学を、徹底的にサポートする。それは併設校としては、ある意味、革新的なものです。高校受験のない中高一貫教育は、いい面もありました。でも中学生が学力を伸ばしていくためには、高校受験というハードルを設けた方が目標に向かわせやすいのです。学習指導要領の定める標準時間より大幅に多い5教科の授業時間や、福岡県内で唯一「eラーニング」の教育ソフト「すらら」の導入、英語と数学の「速習クラス」でハイレベルの学力を養成するなど、期待に応える取り組みも進めています。

もちろん多くの生徒が付属高校を選択してくれるのがベスト。そのため高校や大学と一丸となって魅力ある学園づくりにも邁進しています。

継続した体験が、思い出と自信に

と言っても、本校は単なる「受験校」ではありません。よく私は竹に例えるのですが、まっすぐでありながら、どんな困難にもフレキシブルに対応できるよう、しっかりとした「節づくり」をするのが中学の3年間だと思っています。それに役立つのが、体験です。ネットやゲーム、スマホなど、今はバーチャルな世界が当たり前。だからこそ体全体を使うこと、感動することがなにより大事なのです。睡眠や食事、衛生など、すべてを自分で管理できる、自立した人間をつくることは、今後ますます望まれるでしょう。幸い本校には、伝統的に体験学習がたくさんあります。宿泊研修を例にとると、1年生では英彦山で、規律訓練や自然体験をします。最初は5分前に集合

北九ウォーク

1年生

帆柱連山登山
(15km)

2年生

八幡東区近代化遺産ウォーク
(18km)

3年生

長崎街道ウォーク
(25km)

宿泊研修

1年生

自然体験教室
(英彦山青年の家)

2年生

古都探訪教室
(京都・奈良)

3年生

海外体験教室
(オーストラリア)

プレゼンテーション

1年生



夏休み体験発表

2年生



英語スキット

3年生



英語での自己紹介 (SI)

三大フェスティバル



文化祭



体育祭



音楽祭



風雪に耐える

することができない子がいます。それが2泊3日で、自分のことがちゃんとできて、友だちとの集団生活が送れるようになる。2年生になると京都・奈良に出かけて、日本の古いものに触れます。そこで学んだ日本の伝統や文化を英語で紹介するのが、3年生のオーストラリアへの海外体験教室。このように継続させることで、体験を思い出すこととどめることなく、自信や成長のきっかけにしているのが大きな特長です。

中学時代の最大の体験は、高校受験です。入試を成功させるためには、学力だけじゃありません。ハートが弱いと挫折するし、目標を落とそうかと弱気になります。不健康な生活をしていては成績も伸びないし、入試の日に体調を崩すこともあるでしょう。知・徳・体のバランスのとれた人間として、高校受験を体験する。真剣に取り組めば、たとえ失敗しても次のステップではきっとがんばれる強さになると信じています。

キャリア体験

中学生生活最後で最大の体験、それが高校入試。

自分のもっているすべての力を表現し尽くします。

真夏の熱戦、 ビブリオバトル統一チャンプ大会

学生の基礎学力の向上を目的として、昨年からゼミのグループワークに取り入れた「ビブリオバトル」。その高い教育効果が認められ、国際関係学部では、1年生全員が入門セミナー（ゼミ）でチャレンジ。7月28日には「国際関係学部入門セミナー統一チャンプ大会」を開催しました。

統一チャンプ大会には、各ゼミでチャンプ本に選ばれた学生12名が登場。国際関係学部1年生全員とゼミ担当の先生、さらに他学部の先生など、総勢100名を超える聴衆が見守るなかで行われました。緊張と戦いながらも、さすがに各ゼミを代表するだけあって、個性が光る発表に引き込まれます。観客全員による投票により統一チャンプは、正代ゼミの渡部恭子さん『ダイオウイカ奇跡の遭遇』に決定。渡部さんは11月29日に開催される九州北部地区決戦に出場、12月14日に京都大学で行われる全国大会をめざします。

また大学図書館では、10月から11月にかけてオープン予選会を実施予定です。九国大生の活躍にご期待ください！
※本学のビブリオバトルは「教職協働で作る学修支援の取り組み」として、私立大学図書館協会の2014年度研究助成事業に採択されています。



緊張しながらも堂々の発表



観客全員による投票



中央のトロフィーを持つのが統一チャンプの渡部さん
(終了後、正代ゼミの面々と)

ビブリオバトルとは

お気に入りの本を持ち寄り、5分間で魅力を紹介し合い、聞いた人が読みたくなった一冊に投票、チャンプ本を決める書評会です。2007年に京都大学の研究室で始まり全国に広がっています。

九国大では教育効果を高め、より良い発表につなげるために、独自の工夫を凝らしています。それがビブリオバトル用のワークシート。国際関係学部の松井先生が作成したもので、ワークシートに沿って記入していくと、本の内容や感想、おすすめポイントはもちろん、その根拠が整理され、大学生らしいプレゼンテーションができるようになります。

頭の中にある知識や情報をいかにアウトプットするか。相手に伝えるために、どのようにアピールするか。紹介する本にとどまらず、内容に関連した事柄を調べることができるか。

この一連のプロセスが学生にとって大切な「学び」となります。九国大のビブリオバトルで、「読む・書く・話す・聞く」の総合力を養うことができるといわれる理由もここにあります。



研究モデルクラスになっている
松井ゼミのグループワーク

基礎学力と意欲を向上させる、 基礎教育センターを開設

2014年4月基礎教育センター（以下、センターと略）を開設しました。中学・高校時代に「苦手」だった科目や「理解がはいまい」な箇所を、つまづいているところまでさかのぼって基礎学力を定着させることから、英検やTOEICなどの資格試験対策まで幅広く学生の学習支援を行っています。

センターの学習支援には、1対1形式の個別指導と2名以上のグループ指導があります（いずれも予約制。開設当初、学生は、はたして予約してまで利用するだろうか、少し懸念する声も聞かれましたが、4月のわずか3週間でのべ100人以上が、5月以降は毎月のべ300人近い学生が利用するほどの大盛況（！））。今後、センタースタッフと学生の時間割のミスマッチが解消されていけば、利用者はさらに増えるものと期待しています。

ところで、センターが積極的に試みていることの一つに、さまざまな角度から学習意欲を引き出すということがあります。たとえば、音楽版ビブリオバトルであるミュージックバトルの開催や、留学経験者による語学（案-）指導の実施です。12月には女人禁制（？）の「男祭り」クリスマスを一人で迎えて何が悪い！と題した、学生・教職員一体となったビブリオバトルを開催する予定です。こうしたイベントは、高校までの試験で高得点を取るための「学び」から、幅広い教養と深い思考力を身につけるための基礎学力習得へのきつかけづくりになっています。これからも多くの教職員を巻き込みながら、学生の基礎学力向上に一体となって取り組んでいきます。



医療の道を志す43名が、 人体解剖を見学

6月1日、医師・看護師など医療の道を志す生徒43名が九州歯科大学で行われた人体解剖見学に参加してきました。学校では学ぶことができない体験をし、生命の尊厳に向き合うことで、多くの事を感じ、考える良い機会になりました。



参加した生徒の感想(抜粋)

見学を始める前の黙祷で、命を学ばせてもらうんだと実感しました。

教科書などに載っていたものと実際に見たものでは、形も大きさも異なっている臓器が多くありました。

生きることの尊さをもう一度見つめなおしたい。

実際に見たり触ったりすることで、数えきれないほどの新しい発見と感動があり、命の重みと医療関係の仕事に就くことの責任の重さを感じました。

ご遺体と向きあうことで、死に対するイメージが少し変わった気がします。どう変わったかと聞かれたら、それはまだ明白ではありません。

熱い応援を

ありがとうございます。

3年ぶり5度目、

夏の甲子園大会出場

付属高校野球部が福岡県代表として、第96回全国高等学校野球選手権大会に出場しました。8月14日に行われた一回戦で、北海道代表の東海大四高校と対戦。ピッチャーの好投と隙のない打線にはばまれ惜しくも敗退し、甲子園で一勝する難しさを改めて知りました。

在校生をはじめ保護者や卒業生、そして地元のみならず、たくさんの方の応援や寄付をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。この経験を力に、また甲子園をめざしてがんばります。



1年生の

成清創くんが、

高校将棋

全国大会に出場

小学3年生の時に将棋道場に通い始め、熱心に将棋に打ち込んできた成清創くん(1年S組)志徳中学校出身。31人が出場した福岡県予選では、さまざまなライバルと対戦を重ね、決勝戦では優勢に戦いを進め、終盤の反撃も防ぎきって勝利をつかみました。成清くんは福岡県大会で初優勝し、福岡県の代表となりました。8月に行われた「第27回全国高等学校将棋王戦」では惜しくも予選で敗退しましたが、この経験を次の戦いに活かすと抱負を語ってくれました。



今回の全国大会では多くのことを学びました。それは勝つ大変さです。今回は3連敗でした。初戦を落としたことで、次負けると予選敗退という状況になり、まったく意識していなかった緊張や焦りが将棋にいつのまにか表れていました。ベスト8に入れるのではないかと思っていた、後日師匠に言われたほど絶好調で、実力、精神ともに自信を持って迎えた今大会でしたが、無意識の緊張や焦りで自分の力を出し切れませんでした。次の全国大会ではこの経験を踏まえ、十分に対策を練って臨もうと思います。

学びを遊ぶ、

「学習クイズクラスマッチ」

7月9日・11日の2日間、付属中学校では「第1回学習クイズクラスマッチ」を開催しました。これは、スポーツのクラスマッチのように、生徒たちが楽しみめて、その後の学校生活が活気づくような面白いことができたいかと、今年度初めて取り組んだ行事です。

クラス全員によるペーパーテストの1次大会を経て、各教科の先生の出題による決勝大会で、みごと優勝をおさめたのは3年C組。先生もクイズ番組の司会者さんからの衣裳で登場するなど、授業とは一味違った楽しさで大いに盛り上がりました。3年生の意地、2年生の負けん気、1年生の勢いを試すべく、第2回も企画中です。



1・2年生の教室に、 プロジェクターを設置



今年度導入したプロジェクターは、黒板に投影して電子黒板として使用したり、パソコンを接続してインターネットやパワーポイント、DVDなどを活用した授業を行うことができます。黒板に投影された資料を全員で確認、電子ペンを使ってポイントを書き込みながら説明する授業は、生徒たちにも「わかりやすい」と好評。今後も視覚的な教材の使用方法を研究し、学力向上につなげていきます。

University

◎ウエイトリフティング部

第60回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会

85kg **準優勝** 瀬分 隆生
94kg **第3位** 太田 悠斗
+105kg **第3位** 石井 翔太

第25回全日本女子学生

ウエイトリフティング選手権大会

48kg **準優勝** 足立 咲輝

第11回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会

男子62kg **準優勝** 平井 隼人
男子94kg **第3位** 小石 颯
男子105kg **準優勝** 田中 太郎
男子+105kg **準優勝** 竹田 善彦
女子48kg **準優勝** 柳田 瑞穂



◎バドミントン部

第63回九州学生バドミントン選手権大会

〈男子〉

団体 **優勝**
シングルス **優勝** 森田 浩平
3位 中西 俊彰
ダブルス **優勝** 大塚 悟司
森田 浩平
準優勝 野中 悠輝
近本 哲

〈女子〉

シングルス **優勝** 中村 麻裕

この大会において、団体上位2位まで、個人戦上位3位までが10月に行われる全日本インカレに出場。

第54回九州学生リーグ戦大会

〈男子〉

団体 **優勝(7連勝)**
M V P 近本 哲



◎バスケットボール部

第64回九州地区大学体育大会 **第3位**

第19回全九州大学

春季バスケットボール選手権大会 **第4位**



◎陸上競技部

第84回九州学生

陸上競技対校選手権大会

1500m **優勝** 片瀬 誠

全日本インカレ出場決定。

陸上競技においては、

1990年出雲駅伝以来の

全国大会出場。



High School

■平成26年度 全国高校総体



◎陸上部

第66回 全国高校総体陸上競技大会

100m 飯野 明彦 予選2位 準決勝 8位
1500m 長沼 侑花 出場
5000m 末永 貴瑛 出場

◎バドミントン部

第65回 全国高校総体バドミントン競技大会

男子団体 ベスト16
女子団体 ベスト8
男子個人シングルス 西坂 昇 ベスト16
個人ダブルス 西坂 昇・水谷 希純 ベスト32
女子個人シングルス 石橋 舞 2回戦敗退
個人ダブルス 石橋 舞・松山 奈未 ベスト8



◎体操部

第30回 全国高校総体体操・新体操競技大会

団体 31位
個人 森 雄登 116位
木村 偉太 139位
高山 蒼 147位
山崎 優太 173位

◎ウエイトリフティング部

全国高校総体ウエイトリフティング競技大会

53kg級 西 浩生 34位
69kg級 守田 敦貴 46位
77kg級 松村 良 24位
85kg級 福田 匠磨 **1位**
94kg級 河浦 英嵩 23位

全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会

58kg級 三吉 琴乃 6位(スナッチ競技 **1位**)
69kg級 戸田 妃乃子 5位



◎水泳部

全国高校総体水泳競技大会

200m個人メドレー 高野 将汰 予選43位

Junior High School

今年も女子バドミントン部が活躍しました!

日頃から、この夏の大会を大きな目標として汗を流してきました。いい成績を残したい!この気持ちを胸に、市大会、県大会と舞台を大きくしていきました。九州大会では、準優勝と好成績を残しましたが、本人たちは悔しい思いがあったようです。全国大会にも出場し、一進一退の攻防戦に応援部隊は息ををするのを忘れるほど。簡単には点数を取れないのが全国大会。懸命にシャトルを追う姿は本当にかっこよかったです。相手チームの応援にも負けじとこちらも対抗して声を出し、チームが一つになる喜びを改めて感じました。来年も、この大きな舞台で活躍してくれることでしょう。

◎女子バドミントン部

<第43回 九州中学校バドミントン大会>
8月7日~9日

女子団体 **準優勝**

平野 紗妃(3年)・松岡 真那(3年)・
江川 文香(3年)・田村 七海(3年)・小西 春七(2年)・
田島 珠姫(1年)・中村 麻誉(1年)



女子シングルス **優勝**

平野 紗妃(3年)



女子ダブルス **優勝**

松岡 真那(3年)・中村 麻誉(1年)



<第44回 全国中学校バドミントン大会>

8月19日~22日

女子団体ベスト16

本や音楽、恩師など、先生の人生の転機となった出会いを教えてくださいました。



孔子 — 人間、どこまで大きくなれるか

洪沢栄一 三笠書房

(大学図書館に所蔵しています)



九州国際大学経済学部助教

山本 雄三

専門は労働経済学。研究テーマは若年労働市場や公共職業訓練に関する計量分析。経済学科でミクロ経済学入門、経済数学入門、労働経済学を担当。

空理空論は学問ではない。実践とその実行の動機となる精神に重きを置く。

2000年代前半ITバブル全盛の時代、利益追求のためには違法でさえなければどんな姿勢・手段もまかり通る風潮に、懐疑的でありながらも、景気を牽引している事実を前に疑問を呈することができませんでした。そんな時にあるきっかけがあつて手にした本。

洪沢栄一は明治初期から大正にかけて数多くの企業の設立や事業に携わり、日本資本主義の父とよばれる実業家。その業績を支えた根幹には、孔子の教えが記された論語の精神があり、洪沢は経済道徳一致説を唱え、それに基づき事業や経営に臨んでいました。本書で洪沢が強調しているのは、人間生活上の経済観と人道修飾上の道徳観は両立しうるもので、論語は単なる理想論としての道徳ではなく実学の学問である、ということ。経済と道徳は相容れないものと考えていた私にとって、それは初めて出会う考えであり強い感銘を受けました。多くの事業を成功させただけに説得力があります。そして経済の枠にとどまらず、洪沢本人の経験や多くの偉人を具体的に挙げながら、多くの人生訓が説かれています。研究者という範囲を超え、一人の人間としての成長に大きな示唆を与えてくれた一冊です。

寄付金のお願い

現在、学校法人九州国際大学では、「教育研究用施設設備の拡充」と「教育環境整備」を目的に寄付金の募集を行っております。具体的には、校舎の耐震工事や空調機器の更新、グラウンド等校地の整備、教育情報システムの更新・整備などに順次充当し、北九州屈指の私学として、引き続き「質の高い教育」と「人材育成」に努めてまいります。

つきましては、寄付金の趣旨にご賛同いただき、皆様方の温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、寄付金募集に関する問い合わせや手続確認、用紙請求等につきましては、右記の部署までご連絡ください。

【連絡先】

学校法人九州国際大学

法人事務局寄付金担当 松尾史雄

〒805-8513 北九州市八幡東区平野2-5-1

TEL. 093-671-9034 FAX. 093-671-9032

E-mail kifu@kiu.ac.jp

本学HPの寄付金情報 <http://www.kiu.ac.jp/about/kifu/>

学校法人 九州国際大学 平成25年度 決算状況

平成25年度消費収支決算は、2億9,567万円の消費支出超過となりました。また、帰属収支差額（基本金組入前の収支差額）は、2億2,951万円の支出超過となっております。
 帰属収入は、39億9,867万円となり、前年度と比較して1,151万円増加しました。一時的な収入である退職金財団交付金が減少したものの、学生生徒納付金・資産運用収入の増加及び特定資産（仕組債）の売却収入が発生したことが主な要因です。消費支出に関して、一般経費（教育研究経費・管理経費）は前年度に比べ9,169万円増加しました。これは、高等学校旧校舎等の解体費（9,400万円）が主な要因となっており、大規模事業計画に基づく臨時的な支出によるものです。また、旧校舎等の解体に伴う資産処分差額（2億5,651万円）を計上しており、消費支出が増加した要因となっております。その他の経費については、電気料金の値上げ等によるやむを得ない経費の増加はあるものの、予算編成方針に沿った経費抑制を継続的に行っています。人件費については、退職金及び退職給与引当金繰入額を除く人件費本体（役員報酬含む）が、3,462万円減少しました。引き続き、総額人件費の管理を行うとともに、人員構成の適正化を図り、人件費の抑制を図っていきます。

なお、平成26年3月末現在の次年度繰越支払資金は、25億4,989万円で、前年度末より2億3,372万円増加しました。「退職給与引当特定資産」は、9億7,282万円で、学校法人会計基準に基づき、当期末退職給与引当金計上額の100%を積み立てた金額となっております。「減価償却引当特定資産」は、13億2,976万円となり、当該年度の繰入額（5,000万円）及び有価証券売却益とあわせて、前年度末より7,730万円増加しました。

貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	資産の部			負債の部			
	平成25年度	平成24年度	増減	科目	平成25年度	平成24年度	増減
固定資産	17,069,315	17,526,931	△ 457,616	固定負債	1,960,140	1,381,730	578,410
有形固定資産	14,713,143	15,022,563	△ 309,420	長期借入金	985,470	361,010	624,460
土地	4,912,722	4,166,653	746,069	退職給与引当金	972,823	1,017,227	△ 44,404
建物	6,973,323	7,494,504	△ 521,181	長期未払金	1,847	3,493	△ 1,646
構築物	555,297	404,006	151,291	流動負債	638,832	983,031	△ 344,199
教育研究用機器備品	425,765	370,707	55,058	短期借入金	105,540	425,540	△ 320,000
その他の機器備品	50,187	59,565	△ 9,378	短期未払金	38,490	43,165	△ 4,675
図書	1,788,463	1,774,693	13,770	前受金	373,190	391,668	△ 18,478
車輛	7,386	8,327	△ 941	修学・研修旅行費預り金	65,742	65,220	522
建設仮勘定	0	744,108	△ 744,108	預り金	55,870	57,438	△ 1,568
その他の固定資産	2,356,172	2,504,368	△ 148,195	負債の部合計	2,598,972	2,364,761	234,211
ソフトウェア	359	589	△ 230	基本金の部			
電話加入権	3,203	3,203	0	第1号基本金(施設・設備取得)	22,301,054	22,429,924	△ 128,870
敷金	14,450	14,450	0	第4号基本金(運転資金)	397,000	397,000	0
有価証券	0	200,000	△ 200,000	基本金の部合計	22,698,054	22,826,924	△ 128,870
長期貸付金	760	1,026	△ 266	消費収支差額の部			
退職給与引当特定資産	972,823	997,826	△ 25,003	翌年度繰越消費支出超過額	5,251,818	5,151,171	100,647
減価償却引当特定資産	1,329,763	1,252,459	77,304	消費収支差額の部合計	△ 5,251,818	△ 5,151,171	△ 100,647
預託金	34,814	34,814	0	負債の部基本金の部及び消費収支差額の部合計	20,045,208	20,040,514	4,694
流動資産	2,975,893	2,513,583	462,310				
現金預金	2,549,893	2,146,622	403,271				
未収入金	267,725	297,817	△ 30,092				
貯蔵品	159	268	△ 109				
短期貸付金	798	941	△ 143				
修学・研修旅行費預り資産	65,320	64,748	572				
前払金	3,497	2,577	920				
立替金	608	0	608				
仮払金	87,893	610	87,283				
資産の部合計	20,045,208	20,040,514	4,694				

- 校舎・寮・体育館等の建物及び建物付属設備（空調等）の額。
- 教育研究のために使用される機械設備の額。
- 教育研究目的以外の機械設備の額。
- 建設中の有形固定資産をい、工事前払金、手付金等を含む。
- 退職金の支払いのため、将来の支出に備えて留保した資金の額。
- 老朽施設の更新や機器備品の買換え及び拡充を目的として留保した資金の額。
- 現金及びすぐに引き出せる預貯金の額。
- 決算日（3月31日）における未収額。
- 切手、はがき、図書カード等の在庫。

- 返済期限が1年以上の借入金。
- 当該年度末に教職員全員が退職した場合に支払われる退職金の見積額。
- 返済期限が1年以内の借入金。
- 翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等。
- 財産的な基礎を確保する額のこと。本学が定時的かつ継続的に経営していくために必要な額。
- 資産から負債・基本金を差し引いた額。プラスは累積黒字、マイナスは累積赤字を示す。

【有価証券】
 国債・地方債・社債・金融債・株式などがあり、会計年度末後1年を超えて保有する目的のものは「その他の固定資産」に計上します。一時的（短期的）な保有を目的とするものは「流動資産」に計上します。

【引当特定資産】
 施設の増設や改装、機器備品その他の設備の拡充や買い替え、退職金の支払いなど、将来の特定の支出に備えるために資金を留保した場合に設ける勘定科目です。このような資金留保は、経営方針に基づく長期的な資金計画によって実行されます。

【現金預金】
 現金、銀行の各種預金、郵便貯金などです。「現金預金」の額は、資金収支計算書の「次年度繰越支払資金」と一致します。

【借入金】
 長期借入金は、返済期限が年度末後1年をこえて到来する借入金で、「固定負債」に計上します。短期借入金は、返済期限が年度末後1年以内に到来する借入金で、「流動負債」に計上します。

【預り金】
 給料・報酬などにかかる源泉所得税、住民税など学校法人の帰属収入にならない、他に支払うための一時的な金銭の受入額をいいます。

【消費収支差額】
 当該年度以前における各年度の消費収入から消費支出を差し引いた差額の累計額です。消費収支計算書において、消費収入のほうが消費支出より多い場合その差額を「消費収支超過額」といい、逆の場合は「消費支出超過額」といいます。

【語句説明】：貸借対照表に表れる主な科目

消費収支関係財務比率

(過去4ヶ年:平成22年度~平成25年度)

比率	算式	H22	H23	H24	H25	評価
1 人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	66.4%	62.1%	60.4%	58.1%	▼
2 人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	101.0%	100.2%	98.5%	93.5%	▼
3 教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	32.9%	29.6%	28.3%	28.7%	△
4 管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	11.4%	10.3%	10.0%	11.8%	▼
5 借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.4%	0.3%	0.2%	0.2%	▼
6 消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	113.7%	103.1%	99.1%	105.7%	▼
7 消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	118.4%	109.7%	113.4%	107.5%	▼
8 学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	65.8%	62.0%	61.3%	62.1%	—
9 寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	△
10 補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	24.7%	25.0%	25.1%	24.7%	△
11 基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	4.0%	6.0%	12.7%	1.7%	△
12 減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	11.0%	10.9%	11.0%	10.0%	—

貸借対照表関係財務比率

(過去4ヶ年:平成22年度~平成25年度)

比率	算式	H22	H23	H24	H25	評価
1 固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	87.2%	86.7%	87.5%	85.2%	▼
2 流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	12.8%	13.3%	12.5%	14.8%	△
3 固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	7.9%	7.4%	6.9%	9.8%	▼
4 流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	3.5%	3.2%	4.9%	3.2%	▼
5 自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	88.5%	89.4%	88.2%	87.0%	△
6 消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△ 21.6%	△ 23.7%	△ 25.7%	△ 26.2%	△
7 固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	98.5%	97.0%	99.2%	97.8%	▼
8 固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	90.4%	89.6%	92.0%	88.8%	▼
9 流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	364.0%	413.7%	255.7%	465.8%	△
10 総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	11.5%	10.6%	11.8%	13.0%	▼
11 負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	13.0%	11.9%	13.4%	14.9%	▼
12 前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	555.6%	578.3%	548.1%	683.3%	△

【注記】(1). 財務比率の評価は、個々の学校法人に適用する場合に内部事情等を個別に判断しなくてはならないが、財務比率の高低の評価を以下のとおりとしている。

(私学事業団・今日の私学財政参照) [△:高い値が良い] [▼:低い値が良い] [—:どちらともいえない]

(2). 総資金=負債+基本金+消費収支差額、自己資金=基本金+消費収支差額、運用資産=その他の固定資産+流動資産、外部資産=総負債-(退職給与引当金+前受金)

資金収支計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位:千円)

収入の部	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,482,462	2,484,090	△ 1,628
手数料収入	71,564	72,181	△ 617
寄付金収入	2,500	4,694	△ 2,194
補助金収入	988,681	988,682	△ 1
資産運用収入	70,900	71,500	△ 600
資産売却収入	200,000	200,000	0
事業収入	88,732	89,708	△ 976
雑収入	229,944	244,548	△ 14,604
借入金等収入	1,663,000	1,663,000	0
前受金収入	357,900	373,190	△ 15,290
その他の収入	324,298	373,530	△ 49,232
資金収入調整勘定	△ 605,616	△ 659,153	53,537
前年度繰越支払資金	2,146,621	2,146,621	
収入の部合計	8,020,986	8,052,591	△ 31,605
支出の部	予算	決算	差異
人件費支出	2,367,783	2,360,893	6,890
教育研究経費支出	816,439	786,998	29,441
管理経費支出	426,478	408,634	17,844
借入金等利息支出	10,378	9,837	541
借入金等返済支出	1,358,540	1,358,540	0
施設関係支出	262,205	259,204	3,001
設備関係支出	121,394	121,073	321
資産運用支出	50,000	100,819	△ 50,819
その他の支出	45,700	136,120	△ 90,420
[予備費]	20,000	20,000	
資金支出調整勘定	△ 29,259	△ 39,420	10,161
次年度繰越支払資金	2,571,328	2,549,893	21,435
支出の部合計	8,020,986	8,052,591	△ 31,605

翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等。

長期・短期の貸付金の回収額。特定の目的のために積立てた預金(退職・減価償却)等を取り崩した額など。

収入として計上したが、未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に受入れている収入を差引くことにより、資金の収入額を調整するもの。

土地、建物、構築物等を取得するための支出。

教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書などを取得するための支出。

支出として計上したものの、未払いとなっているものや、前払金支払いとして前年度までに支払っている経費を差引くことにより、資金の支出額を調整すること。



【語句説明】：資金収支計算書にのみ表れる主な科目

【前受金収入】

翌年度分の学生生徒等納付金が当年度に納入された収入をいいます。

【資金調整勘定(資金収入調整勘定、資金支出調整勘定)】

資金収入調整勘定とは当年度の諸活動に対する収入で、前年度以前に資金の収入になったもの、及び当年度の諸活動に対する収入で、翌年度以降に資金が受け入れられるものです。資金支出調整勘定は、当会計年度の諸活動に対応する支出で前会計年度以前において支払資金の支出となったもの、および当会計年度の諸活動に対応する支出で翌会計年度以後において支払資金の支出となるべきものをいいます。

消費収支計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位:千円)

収入の部	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,482,462	2,484,090	△ 1,628
手数料	71,564	72,181	△ 617
寄付金	2,500	13,826	△ 11,326
補助金	988,681	988,682	△ 1
資産運用収入	70,900	71,500	△ 600
資産売却差額	0	27,075	△ 27,075
事業収入	88,732	89,709	△ 977
雑収入	233,568	251,612	△ 18,044
帰属収入合計	3,938,407	3,998,675	△ 60,268
基本金組入額合計	△ 112,600	△ 66,157	△ 46,443
消費収入の部合計	3,825,807	3,932,518	△ 106,711
支出の部	予算	決算	差異
人件費	2,334,452	2,323,553	10,899
教育研究経費	1,173,147	1,147,901	25,246
管理経費	495,910	471,222	24,688
借入金等利息	10,378	9,837	541
資産処分差額	275,679	275,678	1
(16,756)			
[予備費]	3,244	3,244	
消費支出合計	4,292,810	4,228,191	64,619
当年度消費支出超過額	467,003	295,673	
前年度繰越消費支出超過額	5,151,171	5,151,171	
基本金取崩額	175,768	195,026	
翌年度繰越消費支出超過額	5,442,406	5,251,818	

現金寄付及び書籍・絵画等の現物寄付を含む寄付。

帰属収入とは、学校法人の負債にならない収入。

消費収入とは、帰属収入から基本金を組み入れた後の額。

消費支出とは、学校法人が諸活動を行うために支出する費用で、消費収入により賄われる。

消費収入から消費支出を差し引いた金額が消費収支差額(収入超過または支出超過で表示)。



【語句説明】：資金収支及び消費収支計算書に共通して表れる主な科目

【学生生徒等納付金】

在学を条件とし、又は入学の条件として、所定の額を義務的かつ一律に納付すべきものです。授業料、施設設備費、入学金等の学生・生徒から納入されるもので、収入のうち最も大きな割合を占めます。

【手数料】

入学試験、転入学試験のために徴収する収入です。具体的には、入学検定料、試験料、証明書発行手数料をいいます。

【補助金】

国・地方公共団体及びこれに準ずる機関から交付される補助金をいいます。

【資産運用収入】

預貯金や有価証券等の利息・配当金収入及び所有する施設の賃貸などの収入をいいます。

【事業収入】

食堂、売店、寄宿舎等の補助活動収入、外部から委託を受けて行う受託事業収入などをいいます。

【雑収入】

学校法人に帰属する上記の各収入以外の収入をいいます。これには、私学事業団等から退職金資金その他の交付金を受けたときの収入も含まれます。

【人件費】

専任教職員、非常勤講師などに支給する本俸・期末手当・その他の手当・所定福利費、理事及び監事に支払う報酬などをいいます。

【教育研究経費】

教育研究のために支出する経費をいいます。

【管理経費】

総務・人事・経理業務や学生募集のための支出などで、教育研究以外の経費をいいます。



【語句説明】：消費収支計算書にのみ表れる主な科目

【帰属収入】

学校法人のすべての収入のうち、負債とならない収入(学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金など)をいいます。

【消費収入】

消費収入は、消費支出に充当できる収入のことで、帰属収入から基本金組入額を控除して算出されるものです。

【基本金組入額】

学校法人が教育研究活動を行っていくためには、校地・校舎・機器備品・図書・現預金などの資産を保有し、これを永続的に維持する必要があります。学校会計では、当該年度にこれらの資産の取得に充てた金額を基本金へ組入れる仕組みとなっています。この基本金の対象は、「学校法人会計基準」において、次の4項目に分類されています。

【第1号基本金】：設立当初に取得した固定資産、並びに設立後新たな学校の設置、学部学科の増設、定員や実員の拡大による規模の拡大及び教育の充実に向上のために取得した固定資産の額。

【第2号基本金】：第1号の資産を将来取得するために充てる金銭その他の資産の額。

【第3号基本金】：基金として継続的に保持し、かつ運用する金銭その他の資産の額。

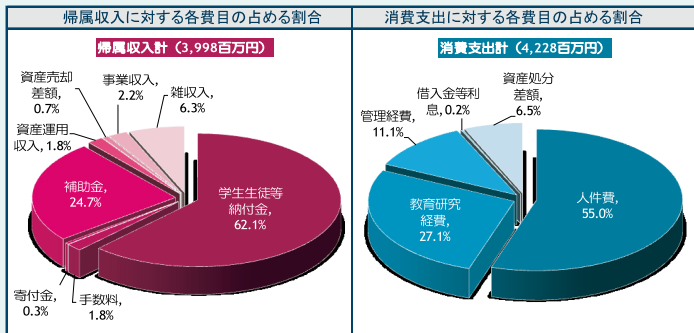
【第4号基本金】：恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額。

【資産処分差額】

不動産や有価証券などを売却し、その売却収入が帳簿残高を下回った場合、その差額をいいます。

【消費支出】

消費支出は、人件費、教育研究経費、管理経費、借入金利息などの当該年度に発生した費用です。資金支出のほかに、退職給与引当金繰入額や減価償却額が計上されています。



企業会計と学校法人会計の違い

企業会計では、会計によって収益と費用を正しくとらえて営業年度の正しい損益を計算し、併せて企業の財政状態、すなわち資産・負債及び資本の状態を知ることによって、より収益力を高め財政的安全性を図ることを目的としています。

一方、学校法人は、教育研究活動により社会に有為な人材を育成することを目的とし、その収入の多くは学生生徒等の納付金や国・地方公共団体からの補助金で構成されている極めて公共性の高い公益法人であり、企業のように収益の獲得を目的とすることはできません。したがって、学校法人の会計には、損益の計算という目的はなく、また、一般の企業に比べてより一層の持続性が望めます。

以上のことから、学校法人会計の目的は、収支の均衡の状況と財政の状態を正しくとらえ、法人の永続的發展に役立てようとすることにあり、その目的を達成するため、計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表)等を作成することになっています。

- 資金収支計算書とは・・・当該会計年度に行った諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにし、支払資金(現金及び預貯金)の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。
- 消費収支計算書とは・・・当該会計年度の消費収入と消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、学校法人の経営状況を表すものです。
- 貸借対照表とは・・・決算日(年度末)における資産、負債、基本金及び収支差額を明らかにし、学校法人の財政状態を表すものです。

九国大の”今”がわかる、おすすめコンテンツ

学校法人 九州国際大学

■大学 法学部 法律学科/経済学部 経済学科/経営学科/国際関係学部 国際関係学科 ■大学院 法学研究科・企業政策研究科
 ■付属高等学校 難関クラス/S特進クラス/特進クラス/準特進クラス/進学クラス/トップクラス/国際コミュニケーションクラス
 ■付属中学校



大学

ここをチェック! 検索

海外交換留学や語学実習のプログラムが充実している九国大。
海外に留学中の学生が、日々のできごとをリアルタイムでレポートしています。



付属高校

ここをチェック! 検索

学びにも遊びにも一生命という伝統を実感できるのが、毎年初夏に開催される文化祭「咲橋祭」。
生徒たちのエネルギーを感じてください。



付属中学

ここをチェック! 検索

授業の様子や放課後の雰囲気がわかり、まるで学校見学に出かけているよう。
イベントや部活動レポートもいっぱいです。

学園広報誌 九国の子 ~キョウトビ~
 vol.112 / 2014
 発行日 / 2014年9月30日
 ■発行 学校法人九州国際大学
 ■学園広報誌作成委員会
 〒805-8513 北九州市八幡東区平野2-5-1
 TEL. 093-671-8900 FAX. 093-671-9032